JR西日本あんしん社会財団 広報誌

リリーフには「ほっとする、安堵、安心」といった意味があります。
当財団は、「安全で安心できる社会」の実現を目指した事業に取り組んでいます。

Relief リリーフ

2015 April
vol.19

特集
平成27年度公募助成

公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団
JR-West Relief Foundation

特集 平成27年度公募助成 助成先決定

平成 27 年度の助成先が決定しました。
応募総数 136 件（活動 65 件 / 活動（特別枠）25 件 / 研究 46 件）のうち、合計 58 件（活動 32 件 / 活動（特別枠）12 件 / 研究 14 件）が採択されました。
平成 22 年から始まった公募助成事業は、今年度で6回目となります。その間、東日本大震災、平成 23 年台風 12 号による災害、平成 26 年広島土砂災害など、大規模な自然災害が幾度も発生し、復興への道のりは遠く続いています。
復興に携わる方々の取り組み、そして事故や災害に備える取り組みなど、安全で安心できる社会づくりを目指し、これからも様々な活動・研究に支援を行ってまいります。

	件数	助成金額
活動	32 件	1,879 万円
活動 (特別枠)	12 件	755 万円
研究	14 件	2,434 万円
合計	58 件	5,068 万円

平成27年度公募助成先（活動・研究）テーマ一覧

（五十音順、敬称略）

事故や災害による、心身のケア等に関する活動及び研究

	テーマ	団体・研究者名
活動	遺族の悲嘆を分かち合い・ささえあい・助け合って前向きに!!	特定非営利活動法人 遺族支え愛ネット
	心と体のケアとしての海洋セラピー体験	特定非営利活動法人 オーシャンゲートジャパン
	大切な人を突然亡くしたおとなたちへの包括的支援構築事業	特定非営利活動法人 ぐりーふサポートハウス
	グリーフサポートラル大津（自死を含む遺族支援）	グリーフサポートラル大津
	膠原病専門医のデータベース化と有事対応のためのマップ化	全国膠原病友の会（事業部）
	事故・災害での突然死の家族へのグリーフケア	虹色の音
	家族や愛する人を失った方々を支える。	はすの会
	自死遺族の苦悩や自責感を和らげる相互支援のための小冊子作成配布	特定非営利活動法人 働く者のメンタルヘルス相談室
特別枠	ふくしまキッズ2015夏　日本海・京都プログラム	特定非営利活動法人 芦生自然学校
	福島県浜通り地方からの避難者の西日本における交流活動	一般社団法人 関西浜通り交流会
	被災地の元気に貢献する、被災地・大阪間の高校生交流事業	がんばろう！つばさネットワーク
	夏休み　疎開・保養プロジェクト	心援隊
	被災地の心身障害児を対象とした宿泊体験	奈良精神科作業療法勉強会
	みちのくだんわ室（東日本大震災による県外避難者の癒しの場）	東日本大震災・暮らしサポート隊
	宮城県南三陸町への継続した支援のとりくみ（海の虹プロジェクト、復興支援餅つきツアー等）	東日本大震災復興支援　京都生協職員ボランティア
	原発事故被災当事者による保養キャンプづくり支援事業	福島の子どもを招きたい！明石プロジェクト
研究	交通事故被害者に対する心理的支援モデルの構築と支援者養成	帝塚山大学 心理学部　大久保 純一郎
	公共放送で使われる人工合成音声が聞き取りにくいコミュニケーション障がい者の実態把握	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所　三谷 雅純

防災・減災に関する活動及び研究

	テーマ	団体・研究者名
活動	災害時要援護者支援活動／稲野町と隣接地域社会と地域教育機関のコラボレーション	稲野自治会
	佐用町久崎における『災害ツーリズム』創設のための防災意識の共有	関西学院ヒューマンサービスセンター
	災害時の活動を安全に行うための新資器材の開発	救命救助研究会
	第６回 全国学生防災書道展	特定非営利活動法人 健康まちづくり推進協会
	高齢者の災害記憶の収集と活用	公益財団法人 公害地域再生センター
	災害時における臨時災害放送局開設のための準備・支援態勢の構築活動	特定非営利活動法人 高槻ブロードキャスト
	若者向けの防災意識啓発講座	D.D for Japan
	全国実施可能な汎用性のある減災プログラムの開発	一般社団法人 72時間サバイバル教育協会
	外国人が災害時安全に避難できるための事業	特定非営利活動法人 奈良国際協力サポーター
	災害時の病院ボランティア活動の推進	特定非営利活動法人 日本病院ボランティア協会
	たかつき川キッズ調査隊～川遊び安全マップを作ろう！～	特定非営利活動法人 ノート
	災害時に生き抜くチカラを育む「レッドベアサバイバルキャンプ」	特定非営利活動法人 プラス・アーツ
	みんなで作ろう！防災かまどベンチ	平群町ボランティア連絡協議会
	外国籍住民のための防災教育出前授業の実施、並びに「やさしい日本語」勉強会の実施	「やさしい日本語」有志の会
	水害フォーラムキャラバン	特定非営利活動法人 リスクデザイン研究所
	保育園児などに対する従来にない新しい防災啓発活動	特定非営利活動法人 和歌山県木質資源開発機構
	災害に備える	特定非営利活動法人 和歌山レスキューサポートバイクネットワーク
特別枠	第三回　東北の中高生による東日本大震災からの教訓講演会、及び防災アトラクション	特定非営利活動法人　姫路発　中高生のための東日本災害ボランティア
研究	津波常襲地域における災害伝承の特性と構造に関する研究	大阪府立大学　石原 凌河
	災害時に迅速かつ詳細な情報収集を行う飛行ロボットに関する研究	神戸大学大学院 システム情報学研究科　浦久保 孝光
	防災・減災に向けた神社および地域伝承の空間特性分析 -南海トラフ巨大地震に向けた活用方策の提案-	神戸市立工業高等専門学校　高田 知紀
	地域密着型の災害時狭域情報配信システムとその運用体制構築手法の提案と実証	和歌山大学 システム工学部　塚田 晃司
	マルチハザード時代の共助体制及び共助組織に関する研究	関西大学　永田 尚三
	備えの力を高める災害看護シミュレーションプログラムの開発	神戸常盤大学　畑 吉節未
	家族漫画を中核装置としたアクションリサーチによる「心の防災」の理論化の試み	立命館大学　村本 邦子
	南海・東南海地震による想定津波の不確実性とこれを踏まえた避難計画の評価	京都大学　森 信人
	安全で安心できる社会創造のための「いのちの教育」の構築、普及・展開の基礎的研究	神戸常盤大学 教育イノベーション機構　柳 敏晴

地域社会における安全構築等に関する活動及び研究

	テーマ	団体・研究者名
活動	助けよう！大切ないのち　さらなる救命率向上を目指して	京都橘大学 救急救命研究会TURF
	ラダー・レスキュー・システム講習会（梯子を使った救助方法）	特定非営利活動法人 ジャパン・タスクフォース
	応急手当講習	鶴舞地区自主防災・防犯協議会
	災害救助犬の育成事業	特定非営利活動法人 日本レスキュー協会
	JR福知山線列車事故被災者支援募金イベント～フレンズかわにし2015	フレンズかわにし実行委員会
	「命」をテーマの講演会と朗読劇	朗読ういっしゅ
	～忘れない～　4.25追悼のあかり	忘れない 追悼のあかり実行委員会
特別枠	みんな仲間だっちゃ！子ども未来図書館　学習サポート隊	アジア子ども基金
	『双葉町応援隊 絆』地域と共に	ゴンターズ高原スポーツ少年団
	東北の手しごと展in神戸	東北の手しごと展神戸実行チーム
研究	スマートフォンを活用した市民救助者に対する心停止場所及びAED設置情報提供の試みと効果検証	京都大学 健康科学センター　石見 拓
	鉄道車両乗降時における安全性と利便性を備えた新機構車椅子の研究開発	大阪産業大学 工学部 交通機械工学科　大津山 澄明
	児童の発達段階を考慮した安全教育プログラムの開発に関する実証的研究	奈良学園大学 人間教育学部　松井 典夫

平成27年度公募助成 贈呈式

平成 27 年度公募助成 助成先の皆様

平成 27 年3月 24 日（火）、ホテルグランヴィア大阪において「平成 27 年度公募助成 贈呈式」を執り行いました。
贈呈書授受後のスピーチでは、それぞれの取り組まれる活動・研究へかける思いを語っていただき、改まった雰囲気ながらも熱気を感じる式典となりました。
助成先同士の交流も非常に盛んで、情報収集等、有意義な時間を過ごしていただくことが出来ました。
今年度も財団スタッフ総出で様々な場所へ赴き、各団体の活動の様子をしっかり発信していきたいと思います。

平成27年度公募助成団体 今後のイベント情報

忘れない 追悼のあかり実行委員会
～忘れない～ 4.25 追悼のあかり
日　時：平成 27 年4月 24 日（金）18:00 ～ 20:00
場　所：ＪＲ福知山線列車事故現場
概　要：ＪＲ福知山線列車事故から 10 年の節目に、亡くなった方々の追悼と事故風化防止の願いを込めて、ローソクを灯し、いのちの尊さをしのぶ場をつくります。（申込み不要、参加無料）
Ｈ　Ｐ：http://www.facebook.com/425.tuitouno.akari
問合せ：忘れない 追悼のあかり実行委員会
ＴＥＬ：072-940-6356
MAIL：mac.ueda@gmail.com

フレンズかわにし実行委員会
JR福知山線列車事故被災者支援募金イベント～フレンズかわにし 2015
日　時：平成 27 年4月 26 日（日）11:00 ～ 17:30
場　所：アステ川西 1階 ぴいぷう広場
概　要：音楽ライブやトークセッションなど、ＪＲ福知山線列車事故の風化を防ぐことを示すチャリティイベントを開催します。（電話、メール、ハガキにて申込み。参加無料）
宛先：兵庫県川西市小花 1-8-1 川西市市民活動センター気付　フレンズかわにし実行委員会
Ｈ　Ｐ：http://friendskawanishi.web.fc2.com/
問合せ：フレンズかわにし実行委員会
ＴＥＬ：090-3944-6642
MAIL：friendskawanishijikko@yahoo.co.jp

虹色の音
「いのちの理由」～「はっぱの物語」
日　時：平成 27 年6月 27 日（土）10:00 ～ 13:30
場　所：宝塚ホテル
概　要：ＪＲ福知山線列車事故で大切な人を亡くした経験を語り、誰にでもある「死」という別れの苦しみや悲しみ、生きている意味を伝えるイベントを開催します。（申込み、参加費は要問合せ）
問合せ：虹色の音
ＴＥＬ：090-4905-0401
MAIL：hrgc8040@gmail.com

グリーフサポートラル大津
自死遺族から学ぶ
日　時：平成 27 年7月 11 日（土）13:30 ～ 16:00
場　所：グリーフサポートラル大津
（プラウドタワー大津 2104）
概　要：自死で家族を亡くした方の自助グループの方からお話を聞き、「生きること、死ぬことは」を参加者の方と一緒に考えていきます。（メールか往復ハガキにて申込み。参加費 500 円）
宛先：滋賀県大津市春日町２番１号 2104
ラル事務局
Ｈ　Ｐ：http://www.facebook.com/lullotsu
問合せ：グリーフサポートラル大津
MAIL：lullotsu55@yahoo.co.jp

はすの会
死別の悲しみに関する講演と、ご遺族の分かち合いの会
日　時：平成27年7月12日(日)13:00～17:00※予定
場　所：東大阪市立総合福祉センター４階
概　要：有識者の講演、ご遺族の語り合いの二部構成で開催します。（要申込、参加費 500 円）
※「一部のみ参加」「二部のみ参加」「一部、二部共に参加」のいずれかを記入の上、往復ハガキにて申込み。（二部に参加される方はどなたを亡くされたかをご記入ください）
宛先：宝塚山本郵便局留　はすの会
Ｈ　Ｐ：http://www.hasuno-kai.org
問合せ：はすの会
ＴＥＬ：080-8318-7933
MAIL：hasuno-kai@hasuno-kai.org

特定非営利活動法人
オーシャンゲート ジャパン
心と体のケアとしての海洋セラピー体験
日　時：平成 27 年7月 25 日（土）11:00 ～ 17:00
場　所：白崎海洋公園（和歌山県日高郡由良町）
概　要：和歌山の海や自然の中で体を動かし、五感を活性化しながら、心身のケアと感覚を蘇らせるための海洋体験を実施します。（FAX またはメールにて申込み。参加費 4,320 円）
Ｈ　Ｐ：http://www.oceangatejapan.com/
問合せ：特定非営利活動法人 オーシャンゲートジャパン
ＴＥＬ：06-6212-6277（FAX も同じ）
MAIL：oceangate@fancy.ocn.ne.jp

平成26年度 公募助成団体の活動紹介

特定非営利活動法人 ぐりーふサポートハウス
『大切な人を突然亡くしたおとなたちへの包括的支援構築事業』
ご家族を突然亡くされた方々に対し、弁護士やカウンセラーといった専門家とのマッチングを行い、必要に応じた支援計画とネットワークを構築するなど、法律問題や精神的課題に対する包括的なサポートを行っています。

特定非営利活動法人 遺族支え愛ネット
『ささえあい暖話室』
近い境遇の遺族同士が悲嘆を分かち合う会を開催しています。２月７日（土）には「ピアサポーター講座」が行われ、約 40 名の方が講義の聴講や体験をされていました。顔見知りの参加者も多く、終始和やかな雰囲気で行われました。

特定非営利活動法人 震災から命を守る会
『防災・防犯まちづくり−みんなでつくる 災害に強い環境づくり−』
２月７～８日の２日間にわたり防災のイベントを開催。８日（日）には「ペットの躾教室」と題したペット同行の避難訓練が行われ、51 組 121名が参加。ペットとの避難方法や避難場所でのマナーなどを真剣に学んでいました。

特定非営利活動法人 健康まちづくり推進協会
『第5回 全国学生防災書道展』
2月12～15日の４日間開催。当初見込んでいた5,000点をはるかに上回る7,370点の応募作品が全国からよせられ、防災への関心度の高さが窺えました。来場者からは、震災のことを考える良い機会となるという声が聞かれました。

関西学院ヒューマンサービスセンター
『災害ツーリズム展覧会』
平成 21 年の台風で水害のあった兵庫県佐用町で、住民の方々との交流を軸とした活動を行っています。２月15日（日）に、水害当時からの記録をまとめた展覧会を開催。当時を思い出し、より一層の防災意識を高める機会となりました。

兵庫県移送サービスネットワーク
『つなぐ～災害被災地の団体として、東日本大震災の被災地域の非営利団体に経験をつなぐ』
福島原発事故による避難者支援を行う現地のＮＰＯ団体や介護事業者に対し、移動困難者の移動支援方法を運転手のスキルアップや資格取得を目的に、専門家によるセミナーや介護福祉施設輸送士の養成講習会を行っています。

特定非営利活動法人 日本病院ボランティア協会
『災害時の病院ボランティア活動の推進』
災害が発生した際の病院の被害を最小限にし、その後の機能をより充実させるため、災害時の病院ボランティアの活動について研修会を開催。平成 26 年度は浜松で開催され、全国各地から参加者が集いました。

大阪大学災害ボランティアサークルすずらん
被災地での民泊による観光受け入れ整備支援ツアーの実施
２月 23～27日の５日間、岩手県野田村で、入村式～民泊～交流会・離村式の民泊ツアーが行われました。参加した学生は被災地見学、漁や郷土料理作りなどを体験。村の方々との笑顔の交流に、真冬ながらも心温まるツアーとなりました。

特定非営利活動法人 Salut
『つながる Marche！2014 防災ブース運営事業』
３月21日（土祝）、百萬遍知恩寺で、京都市内の障害福祉サービス事業所や地域の店舗によるマルシェを開催。防災ブースの設置やステージパフォーマンス等も行われ、まさに人と人とが自然に“つながる”大盛況のイベントとなりました。

様々な活動を拝見していると、それぞれの取り組みにかける熱い思いが伝わってきます。
平成 26 年度に活動いただいた団体の皆様、ありがとうございました！

安全セミナー「ヒューマンファクターから考える安全」

平成 27 年3月 19 日（木）に神戸新聞松方ホールにて、安全セミナーを開催しました。

鉄道のヒューマンエラー 事故防止に向けて

Profile

鈴木（すずき） 浩明（ひろあき） 氏

公益財団法人鉄道総合技術研究所
研究開発推進室　主管研究員

昭和 63 年 早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程修了。平成元年 財団法人鉄道総合技術研究所に入所。以後、ヒューマンエラー事故防止、車内快適性の向上、鉄道車両・設備のユニバーサルデザイン化などに関わる研究開発に従事。平成 10 年 早稲田大学より博士（人間科学）の学位を授与。
平成 13 年 人間工学研究室長、平成 19 年 人間科学研究部長。平成 25 年 4 月より現職。

人間のエラーは大きく３つのプロセスに分けて考えることができます。まず、見落としや聞き間違いなど、感覚器から情報が入ってくる段階でのエラー。次に、思い込みや失念など情報が脳（中枢）に伝わってからのエラー。最後に、言い間違いや転倒など出力段階（運動系）でのエラーです。本日の講演では代表的な中枢系エラーとして、思い込み、失念、慣れの３つを採りあげます。

まず思い込みですが、人間の脳は物事を効率的に処理するようにできていて、同じことを繰り返すうちに注意が省力化されていきます。そのため思い込みによる見間違いや判断誤りが起こりやすくなります。これらにはエラーの起きやすい場所や作業をマップ化したり、注意すべき情報を共有化するなどの対策が有効です。

次に失念です。人間は後でやろうと思ったことは必ず忘れます。また一度に注意を集中できる容量は非常に小さく、１つのことに長時間注意を向け続けるのは難しいので、作業を中断するときは必ずサインを残したり、容量が小さいことを自分で意識して整理する工夫が必要です。チェックリストの項目は少なく明瞭にし、役割分担やダブルチェックも重要です。

三つ目は慣れです。最初は言葉で意識して進めていた作業が次第に自動化して、無意識にできるようになりますが、自動化が進みすぎると、つい習慣的に同じ動作をして失敗することがあります。時にはあえて言葉で表すような訓練で、基本に返ることも大切です。

ヒューマンエラー防止のための取り組みとして、まず、「指差喚呼の効果の体験ソフト」を挙げます。指差喚呼には大きく５つの機能があります。指を指すことで視線が確認対象にしっかりと向く。自分の声で確認内容が記憶に残る。感覚系・運動系両方からの確認作業となり、正確さが増す。ピンと腕を伸ばす筋肉運動によって頭がさえる。一拍確認作業をしてから動き出すので、焦りによる反応を防ぐ。これらの各々の効果を短時間で確認できるパソコン学習ソフトウエアを開発しました。

次に職場内でリスク情報を共有するため、ある事故の場面を設定し、対応や原因、防止策等を話し合う環境を支援する「事故のグループ懇談マニュアル」を作成しました。

最後に「ヒューマンファクター分析法」と「事故の聞き取り調査法」についてです。事故時において記録の仕方が自己流だと、後になってまとめる際に困ることが多いですし、また十分に原因を掘り下げることが難しいため、ヒューマンファクター事故を体系的に整理できる分析法を提案しました。加えて、話しやすい雰囲気作りや対話の進め方など、事故の聞き取り時に配慮すべき点をまとめたマニュアルを開発し、その普及に取り組んでいます。

しかし、どんなに有効な対策でも、続けるうちにマンネリ化したり、参加意識が低下したりします。常に高い安全意識を保ち続けるには、一定期間ごとに訓練のやり方を変えたり、参加意識を高めたりする工夫が必要です。事故事例を壁に掲出した際、「自分も同じような経験をした事のある人」や「事例が参考になった人」にシールを貼ってもらったところ、意見の出やすい雰囲気になったとの報告事例があります。気軽に参加できる方法を考え、参加意識を向上させた好例です。

これからもエラーの発生を減らし、エラーを事故につなげないための安全対策の研究に取り組んでまいります。

『3つの真理』を基礎に築く 安全・安心体制

－新しい安全マネジメントの視点－

Profile

石橋（いしばし） 明（あきら） 氏

株式会社安全マネジメント研究所
代表取締役所長　工学博士

昭和 44 年 中央大学法学部卒業。平成７年 早稲田大学大学院人間科学研究科でヒューマンファクターズの研究に従事。平成 11 年に全日空で飛行時間 19,500 時間を記録した後、全日空機長をリタイア。その後、ヒューマンファクター研究所を設立。平成 17 年 JR 西日本安全諮問委員、JAXA 有人サポート委員、東北大学未来科学共同研究センターリサーチフェローなどを歴任し、現在はＪＲ西日本安全研究所客員研究員、国土交通省航空保安大学校部外講師等を務める。平成 23 年 株式会社安全マネジメント研究所を設立、代表取締役所長に就任。

航空分野における３つの真理というのは、「空は危険である」ということ、「自然の法則は変えられない」ということ、「人は誰でも間違えてしまう」ということです。1970年代半ばあたりからヒューマンファクターズが原因の事故が急激に増え、その探求がなされた結果、人は誰でも間違えるという仕組みが明らかになってまいりました。

大事なのは組織の管理要因、マネジメントファクターを突きとめて、そこに手を打っていくということです。航空においてはリスクの探求を積極的に行った結果、新しい訓練をつくり上げ、失敗に学ぶ体制を築き上げるという２つの大きな目標が定まりました。

そこででき上がったのがＣＲＭ（Cockpit Resource Management）訓練です。従来の飛行技術ではなく、システム管理能力を高める訓練です。今では他産業分野からも非常に注目をされています。

さらにもう１つ、安全報告制度ができ上がりました。事故につながるような貴重な体験をしたら、それが全国のパイロット全員に行き渡るような制度を発足させました。この２つの成果が、航空界における安全文化を促進する起爆剤になったわけです。

では、現場はどうしたらいいのでしょうか。それは安全マネジメントの実務ということなのですが、これを我々は安全マネジメントサイクルと呼んでいます。事故が起きたり、不具合が発生した場合には、事実を正確に把握し、それを科学的に分析していきます。そうしてわかった原因や背後要因を、リスクアセスメントをして優先順位をつけていきます。その優先順位に沿って効果的な対策を練っていただくわけです。

我々が最終的に目指すべきはレジリエントな（復元力を持った）組織です。

まず、人は誰でも間違えてしまうというヒューマンファクターズの基本概念をしっかりとベースとして築き、その土台の上に具体的な仕組みを立ち上げていき、そして、それを反復実践していく中で、コミュニケーション能力、状況認識能力、意思決定スキルを高めていきます。個人個人の能力は高まっていくのですが、それをばらばらに発揮するのではなくて、それを統合してチームパフォーマンスとして発揮させていきます。それが現場力の向上につながるのです。

そのときに大事なことは、レジリエンスエンジニアリング論というものを実装・実践していくことです。そうすれば不適合ゼロ、災害ゼロという究極の目標に着実に一歩一歩近づいていきます。当然ですが、社会やクライアントから高い信頼性を勝ち得ることが可能になります。

安全文化というものは、航空分野に限らず社会全般に共通する安全マネジメントの基本です。ですから、起こった事実をヒューマンファクターズの視点で捉えて、真に役立つ再発防止対策を打ち立てていくことが非常に大事になってきます。

想定外の危難に直面してもしなやかに事故を回避できるレジリエントなチームを培っていくこと、これが新しい安全マネジメントの目標となります。

第７回連続講座『「いのち」を考える』
～あなたにとって「いのち」とは～

平成 27 年１月 30 日から３月６日までの毎週金曜日、関西国際大学 尼崎キャンパスにおいて、６週連続で開催しました。

Profile

戸松（とまつ） 義晴（よしはる） 氏

浄土宗総合研究所主任研究員

慶応義塾大学、大正大学大学院ならびにハーバード大学神学校で学ぶ。
慶応義塾大学医学部非常勤講師、全日本仏教会事務総長、日本宗教連盟事務局長を歴任。

「いのちの引き継ぎとしての終活」
～流通ジャーナリスト金子哲雄さんからのメッセージ～

生きることと死ぬことは同じ

私と金子さんは、檀家である葬儀社さんからのご紹介で出会いました。葬儀の相談に乗ってほしいということでご自宅へ伺い、葬儀のことだけでなく、様々なことを話しました。

「生きることと死ぬことは同じ」―これは金子さんがおっしゃった言葉です。仏教では『生老病死』という４つが私たちの『生』そのもので、仏教の基本からいくと、この１つから目を背け、執着を持つところから苦しみが始まります。

余命宣告を受けてからの金子さんは、死の問題と向き合って正直に日々を過ごされました。会話の中で仏教については全く話さなかったのですが、金子さんがおっしゃった「生きることと死ぬことは同じ」という言葉は、まさに仏教の教えと同じであったと思います。

第2の人生をスタートする

金子さんは、ご自身で葬儀の準備をされましたが、会葬礼状もご自身で書かれました。

自分は早期リタイアをするけれどもゆっくり休むつもりはなく、第２の現場にある、全国どこへでも行ける魔法のドアを通じて、今後もハッピーな話題やお得なネタを探し、お世話になった皆様のところへ情報発信していきたい。そうお書きになっています。

やはり死と向かい合う中で、奥様のことやお世話になった方々のことを思い、自分が死んでも終わらないということを確信されたのだと思っています。

エンディングノートは要らない

金子さんが亡くなられた後、今度は奥様が『死後のプロデュース』という本を出されました。「流通ジャーナリスト・故金子哲雄氏が死を前に取り組んだ妻への『引き継ぎ』」、そして「エンディングノートは要らない」と書いてあります。

終活、金子哲雄、エンディングノートと結びつけがちですが、実は金子さんが言いたかったこと、奥様が皆さんに伝えたかったことは違ったんですね。

普段から親しい方や家族と話していたらエンディングノートを書く必要がない、普段からの関係性と取り組みが大事だというメッセージなのだと思います。

今日はスペシャルゲストとして、金子さんの奥様の稚子さんにいらしていただいています。当事者であり、『僕の死に方』という本をプロデュースされた奥様に、色々とお話を伺っていきたいと思います。

Profile

金子（かねこ） 稚子（わかこ） 氏

流通ジャーナリスト 故金子哲雄氏の妻。夫の死後、執筆活動や講演活動を行う。著書に『死後のプロデュース』『金子哲雄の妻の生き方　夫を看取った 500 日』など。

スペシャルゲスト・金子稚子さんとの対談

戸松：奥様が金子さんと出会われたのはお仕事の関係だと伺っております。

金子：出会ったのは夫がマスコミに出る前のことです。私は編集者をしており、彼の本を作る相談に乗ったのが最初でした。

戸松：金子さんがマスコミに出るようになり、色々なところで活躍できるようになった頃、余命宣告を受けられました。

金子：肺カルチノイドという病気が発覚したとき、夫の肺には９センチもの腫瘍がありました。余命は事実上ゼロ。いつ死んでもおかしくないという状態でした。でも、周囲も本人も、本当に死ぬのかどうか実感できませんでした。

戸松：金子さんは色々な医療機関を訪ねて、何とか治療しようとされたのですよね。

金子：肺がんの権威の先生でも、自分の力が及ばないと匙を投げられましたが、金子の先輩に、大阪で血管内治療を専門になさっている先生をご紹介いただきました。先生は、腫瘍の画像を見るなり「咳がお辛かったでしょう」と、まずその一言を言ってくださって。それを聞いた瞬間、横で夫が号泣しました。この治療でもし死ぬことになっても全く後悔しない、自分の命を預けられる … そう思える先生との出会いをいただくことができました。

戸松：金子さんは、最期はご自宅でと希望され、奥様はケアに専念されたのですね。

金子：私は夫の前に父を胃がんで亡くしています。父も最期は家で亡くなっているのですが、嫌がる父に抗がん剤を無理強いさせたという後悔が私にありました。だから、どんなことがあっても夫の希望を絶対に応援する、と覚悟を決めていました。

一番力になってくださっていたのが町のお医者さん、看護師さんです。往診してくださる看護師さんと夫との間では携帯のショートメールも含めて約 1,000 通のやりとりがありました。お医者さんと看護師さん、そしてご住職は、死に段々向かっていく夫と普通に接してくださった。だから、家族にも言えないことを話せる存在だったんだと思うのです。

戸松：金子さんが「お迎えというのはあるんですか」とおっしゃったことがありました。

金子：色々なパターンで何度もあったんです。宅配便の配達員として天国への荷物を届けようとしたり、パチンコ屋の開店待ちをしている兄ちゃんに天国への道案内をお願いしたり。でも結局、今日は都合が悪いからと天国へは行けず、だから僕は戻ってこれたんだよと話していました。そうしたことを繰り返すうちに、夫が、「あの世とこの世ってあまり違いはない」と言い出したんですね。そして「死後ここで待ち合わせね、稚ちゃん」と、私と死後の約束をするようになったんです。そこは東京の実在する場所なのですが、どうやって行けばいいか聞いたら、タクシーで来てと。なので、私の枕元にタクシーの運転手さんが立つようになったらそろそろかなと思っています（笑）。

戸松：奥様は本を書かれたり、色んな活動をされていますが「悲しいけれど寂しくない」とおっしゃっています。そのことをお話しいただけますか。

金子：夫の書いた『僕の死に方』という本は、私たち夫婦の間ではコンテンツ集みたいなもので、沢山のテーマを埋め込んでいます。それを一つ一つ皆様にお伝えできるようなものに変えてご提案する、というのが、夫から託された私のお役目の一つなんですね。

たとえば、終活とよく言われますが、遺言とか墓とか相続等の手前にあるものが実は本当に大切なこと。死ぬまでをどうやって生きたいのかということを決める、あるいはその意思を人に伝えることが非常に大切で、それが残される家族とか周囲の人を支えるんですね。この大切さをお伝えすることも、今、確実な手応えを感じながら行っている活動の一つです。

皆さんには、死後も続く関係があるということをお伝えしたい。死はお別れでありゼロ、その先が見えないから怖いのでしょうが、死別を経験し、先があるという意味を実感できるようになりました。こうして皆さんの前でお話させていただいているのも、夫の導きだと感じますし、深い感謝の念がお腹の底から沸き上がってきます。だから寂しくないですね。

戸松：ありがとうございました。

使おう！ AED

～AED訓練器等の提供先団体の決定～

ＪＲ西日本あんしん社会財団では、救命処置を気軽に体験していただける「救急フェア」や「エキデモＡＥＤ」を開催し、救命処置の普及啓発に努めていますが、平成 27 年度からの新たな取り組みとして、ＡＥＤ訓練器等を用いて応急手当の訓練等を実施し、救命処置のさらなる普及啓発を行っていただける団体を広く募集しました。

学校、一般企業や自治会などの幅広い分野から、意欲ある 29 団体からの応募をいただき、審査の結果、以下の 11 団体に提供させていただくことに決まりました。

（五十音順）

団体名	提供数	団体名	提供数
京都橘大学救急救命研究会 TURF	3セット	東播磨地域防災の会	1セット
神戸国際大学防災救命クラブ	6セット	東五百住さつき自主防災会	1セット
公益財団法人 青少年野外活動総合センター	4セット	特定非営利活動法人 プール・ボランティア	4セット
垂水マミーズ	3セット	学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校	3セット
社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会	1セット	ゆりのき台自治会	2セット
日本ボーイスカウト大阪連盟	2セット	合計 11 団体	30セット

採択となった団体には「ＡＥＤ訓練器、訓練用人形、付属品（納入袋）」が提供され、平成 27 年４月１日から平成 30 年３月 31 日までの３年間に渡り、普及活動の実績を報告していただきます。

この活動によって、より多くの方々に救命処置を学んでいただき、一歩踏み出す勇気と自信を身につけ、１人でも多くのかけがえのない命を救える一助になればと願っています。

AED訓練器等の提供を受けて

東五百住さつき自主防災会
防災委員長　中野　義文さん

この度はありがとうございます。
提供いただいたＡＥＤ訓練器や訓練用人形が手元にありますと、これまでのような消防署への借用手続き等の負担が軽減され、本当に助かります。
また、少人数での講習会を数多く開催でき、時期や時間に左右される事がないので、これまでよりも講習の幅が広がり、予定が立てやすくなります。
一人でも多くの方に講習に参加いただいて訓練器等に触れていただき、まずは私たちの地域から救命処置の普及啓発に力を入れていきます。

平成27年度事業のご案内

1. 心身のケアに関わる事業

連続講座「『いのち』を考える」

平成 26 年度に引き続き、春・秋・冬に連続６週の講座を開催します。（春季の詳細は P12 トピックス参照）

いのちのセミナー

一人ひとりが「いのち」と向き合う機会となるようなセミナーを開催します。（大阪で開催予定）

グリーフケアに関わる人材養成講座への助成

専門職やボランティアとしてグリーフケアの実践に携わる人材育成を目的として、大阪で開講される上智大学グリーフケア研究所の人材養成講座に対し、助成を行います。

2. 地域社会の安全構築に関わる事業

安全セミナー

南海トラフ巨大地震への関心や昨今の異常気象を受け、「防災」をはじめ、幅広い視点からテーマを選定し開催します。

救急フェア、救9の日 エキデモ AED

近畿２府４県のＪＲ駅を中心に、初期救護の重要性を啓発する活動を実施します。（平成 27 年度４～８月の詳細は P12 トピックス参照）

AED訓練器等の提供による初期救護のさらなる普及啓発

救命率向上に向けたさらなる普及啓発として、救命処置の普及活動に取り組む団体に、ＡＥＤ訓練器等を提供する事業を実施します。

3.「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

あしなが育英会への助成

「高校奨学生のつどい」及び小中学生を対象とした「キャンプのつどい」への助成を行います。

関西いのちの電話、神戸いのちの電話への助成

電話相談員のスキルアップやメンタルケアへの助成を行います。

4. 公募助成事業

平成 28 年度公募助成（活動・研究）

事故・災害防止や被害者支援（東日本大震災・平成 23 年台風 12 号及び平成 26 年広島土砂災害を含む）など、「安全で安心できる社会」の実現に寄与する活動・研究を対象に、公募による助成を行います。

第5回公募助成活動発表会の開催

助成活動の成果発表や団体相互の交流、情報交換を目的とした発表会を開催します。

平成27年度 救急イベントスケジュール（4～8月）

今年度も、ＪＲ各駅で救急イベントを開催します。お出かけついで、ご予定の合間など…どなた様も大歓迎です！気軽に救命処置を体験できるこの機会、ぜひお気軽にお立ち寄りください！

■救急フェア

開催日	開催駅
5月23日（土）	三 田 駅
5月30日（土）	和歌山駅
6月20日（土）	高 槻 駅
6月27日（土）	明 石 駅
7月　4日（土）	大 阪 駅
7月 11日（土）	尼 崎 駅

■エキデモAED

開催日	開催駅
4月　9日（木）	大 阪 駅
5月　9日（土）	三ノ宮駅
6月　9日（火）	伊 丹 駅
7月　9日（木）	神 戸 駅
8月　9日（日）	桂 川 駅

※会場や天候の都合により、スケジュールが変更になる場合がございます。直前のご案内は当財団のホームページにてご確認ください。

第8回連続講座「いのち」を考える ～今を生き未来をはぐくむ～

❶ 5月15日	松野 明美	元オリンピックランナー、タレント、熊本市議会議員	❹ 6月　5日	小寺 洋一	臨床心理士、スクールカウンセラー
❷ 5月22日	小澤 竹俊	医師、在宅ホスピス専門医	❺ 6月 12日	家田 荘子	作家、高野山真言宗僧侶
❸ 5月29日	山下 京子	「彩花へ 生きる力をありがとう」著者	❻ 6月 19日	岩崎 順子	いのちの講演家

※本講座の募集は終了しております

（敬称略）

編集後記

今回は掲載情報満載のため、いつもの８Ｐから 12 Ｐに増量してお届けした Relief vol.19、いかがだったでしょうか？ 初めての試みは何でもドキドキしますね。実は、財団のホームページも４月よりリニューアルしております！ 日頃から親しんでいただけるように、しっかり情報発信していきますので、皆様からのアクセスをお待ちしております！

（編集者：川股）

〒530-8341　大阪市北区芝田二丁目4番 24 号
TEL：06-6375-3202　FAX：06-6375-3229
E-mail：info@jrw-relief-f.or.jp
URL：http://www. jrw-relief-f.or.jp/